１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社は、2023年度を最終年度とする中期経営計画「令和. Prosperity2023」に掲げる「売上高１兆円」、「営業利益率８％以上」を2022年度において１年前倒しで達成しました。2023年度は当社創立100周年の年であり、更なる成長に向けて、パワエレ事業、パワー半導体事業の拡大を中核とする「成長戦略の推進」、グローバルでのものつくり力強化による「収益力の更なる強化」、及び、ESG（環境、人財、ガバナンス）を中心とした「経営基盤の継続的な強化」を引き続き推し進めるとともに、外部環境変化への適応力を一層強化し、売上・利益の拡大を目指しています。

当第３四半期連結累計期間における当社を取り巻く市場環境は、カーボンニュートラルやデジタル化に向けた投資の拡大を背景に、自動車の電動化、省エネ、デジタルインフラ等の継続したニーズの高まりにより、製造業やデータセンター等の設備投資が堅調に推移しました。その一方で、中国経済の低迷継続等を背景に工作機械関連等の需要は低調に推移しました。

このような環境のもと、当社は、拡大する需要に対応したパワー半導体の生産能力増強や、顧客需要に対応した生産体制の最適化、地産地消の推進等により、収益性向上に継続して取り組みました。

当第３四半期連結累計期間の連結業績の売上高は、全ての部門で増加し、前年同期に比べ689億円増加(10％増加)の7,597億円となりました。
損益面では、原材料価格及び動力費の高騰影響や、研究開発費、生産能力増強に係る費用の増加があったものの、物量の増加に加え、製品販売価格の値上げや原価低減の推進、為替影響等により、営業損益は前年同期に比べ152億円増加の577億円となりました。経常損益は前年同期に比べ154億円増加の566億円、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期に比べ83億円増加の373億円となり、売上高、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する四半期純損益いずれも、過去最高を更新しました。

当第３四半期連結累計期間の連結経営成績は次のとおりです。

（単位：億円）

	2023年３月期 第３四半期連結累計期間	2024年３月期 第３四半期連結累計期間	増　減
売上高	6,908	7,597	689
営業損益	424	577	152
経常損益	413	566	154
親会社株主に帰属する 四半期純損益	290	373	83

部門別の状況

≪エネルギー≫
売上高：2,293億円（前年同期比　2％増加）　　営業損益：144億円（前年同期比　8億円減少）

施設・電源システム分野の需要拡大を主因に、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は器具分野の需要減少等により前年同期を下回りました。

・発電プラント分野は、前期の再生可能エネルギー大口案件の影響等により売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。
・エネルギーマネジメント分野は、産業向け変電機器及び電源機器の大口案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・施設・電源システム分野は、データセンター及び半導体メーカ向け案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・器具分野は、機械セットメーカ及び半導体製造装置関連の需要減少等により、売上高、営業損益ともに前年同期を下回りました。

≪インダストリー≫

売上高：2,791億円（前年同期比　15%増加）　　営業損益：115億円（前年同期比　73億円増加）

オートメーション分野、社会ソリューション分野及び設備工事分野の需要増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

・オートメーション分野は、ファクトリーオートメーションにおけるコンポーネントの生産増を主因に、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・社会ソリューション分野は、原子力関連機器案件や放射線機器案件の増加等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・設備工事分野は、空調設備工事の大口案件等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・ITソリューション分野は、公共及び文教分野の大口案件等の需要増加により、売上高は前年同期を上回りましたが、営業損益は案件差等により前年同期を下回りました。

≪半導体≫

売上高：1,665億円（前年同期比　13%増加）　　営業損益：264億円（前年同期比　40億円増加）

・半導体分野は、電動車（xEV）向けパワー半導体の需要拡大により、売上高は前年同期を上回りました。営業損益は、パワー半導体の生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があったものの、売上高の増加により、前年同期を上回りました。

≪食品流通≫

売上高：795億円（前年同期比　16%増加）　　営業損益：69億円（前年同期比　40億円増加）

・自販機分野は、国内の需要拡大に加え、原価低減の推進等により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。
・店舗流通分野は、コンビニエンスストア向け店舗設備機器の改装需要拡大に加え、カウンター機材案件の増加により、売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。

≪その他≫

売上高：467億円（前年同期比　8%増加）　　営業損益：30億円（前年同期比　5億円増加）

（注）当第３四半期連結会計期間より、組織構造の変更に伴い、報告セグメントを従来の「パワエレ エネルギー」、「パワエレ インダストリー」、「半導体」、「発電プラント」及び「食品流通」から、「エネルギー」、「インダストリー」、「半導体」及び「食品流通」に変更しております。なお、各セグメントの前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後の報告セグメントの区分に組み替えたうえで算出しております。

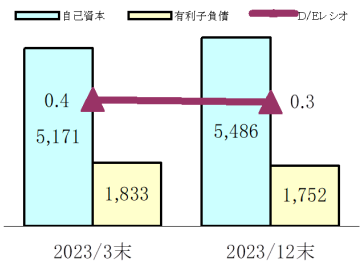
（２）財政状態に関する説明

（単位：億円、倍）

	2023/3末	構成比(%)	2023/12末	構成比(%)	増減
総資産	11,816	100.0	11,945	100.0	+129
有利子負債残高	1,833	15.5	1,752	14.7	△81
自己資本	5,171	43.8	5,486	45.9	＋315
D/Eレシオ	0.4		0.3		△0.1

*自己資本＝純資産合計-非支配株主持分
*D/Eレシオ＝有利子負債残高/自己資本

（単位：億円、倍）



当第３四半期末の総資産は11,945億円となり、前期末に比べ129億円増加しました。流動資産は、現金及び預金、売掛金が減少した一方、契約資産、棚卸資産の増加などを主因として、32億円増加しました。固定資産は、有形固定資産の増加などを主因として、97億円増加しました。

有利子負債残高は、当第３四半期末では1,752億円となり、前期末に比べ81億円の減少となりました。なお、有利子負債残高から現金及び現金同等物を控除したネット有利子負債残高は、当第３四半期末では1,232億円となり、前期末に比べ241億円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金の増加を主因として増加し、当第３四半期末では6,043億円となり、前期末に比べ322億円の増加となりました。なお、純資産合計から非支配株主持分を控除した自己資本は前期末に比べ315億円増加し、5,486億円となりました。D/Eレシオ（「有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末に比べ0.1ポイント減少の0.3倍となりました。なお、ネットD/Eレシオ（「ネット有利子負債残高」÷「自己資本」）は、前期末と同じ0.2倍となっております。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第３四半期連結累計期間の連結業績動向等を踏まえ、2023年10月26日の決算発表時に公表した2024年３月期通期の連結業績予想を修正することといたしました。

第４四半期の為替レートは、140円／US$、150円／EURO、19.5円／RMBを前提としています。

(2024年３月期通期　連結業績見通し)　（単位：億円）

	前回発表	今回発表	増　減
売上高	10,600	10,700	100
営業損益	960	1,000	40
経常損益	945	990	45
親会社株主に帰属する当期純損益	645	680	35

(参考：部門別)　（単位：億円）

	前回発表		今回発表		増　減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,320	270	3,310	263	△10	△7
インダストリー	4,060	326	4,100	329	40	3
半導体	2,230	343	2,240	357	10	14
食品流通	990	65	1,040	77	50	12
その他	600	38	610	42	10	4
消去または全社	△600	△82	△600	△68	0	14
合計	10,600	960	10,700	1,000	100	40